

■玉虫左太夫 蝦夷地の記録「入北記」で幕府初の遣米使節随員に抜擢され、一級の「航米日録」を遺すも、戊辰戦争で獄死した。
たまむしさだゆう
ｼｰﾎﾞ 朴来日・1823＝ 仙台で、伊達政宗の家臣に取り立てられた幕府旗本の分家末裔の、藩鷹匠頭玉虫平蔵の五男に生まれる。
ｼｰﾎﾞ 朴鳴滝塾1824＝ 1歳：父が死去し、後を継いだ兄が小姓組となるも、役料は無く、貧しい生活となる。

ｼｰﾎﾞ 朴事件・1828＝ 5歳：

藩校{養賢堂}で学び、
まず、藩祖伊達政宗の話に影響されて、自尊心や視野の広さを身につけ、

鼠小僧磔・・・1832＝ 9歳：
天保大飢饉始1833＝10歳：天保の大飢饉が始まって、窮乏を極める事態となるが、
文武ともに優れた才を見込まれて、

滑稽+人情本 1835＝12歳：郡奉行についたこともある学問好きの藩士荒井東吾の養子となり、

大塩平八郎乱1837＝14歳：
「海国兵談」を著して幕府の忌避に触れた仙台藩士の子林子平の話も聞かされ、憂国の思想も芽生え、
西洋についての知識が豊富で開明的な大槻磐溪の薫陶を受けて、師と仰ぎ、

蛮社の獄・・・1839＝16歳：藩「蛮社の獄」で潜伏を余儀なくされた仙台藩出身の高野長英からも影響を受けたと思われる。
天保改革始・1841＝18歳：この頃、養父の長女こうと結婚して、後を継ぎ、

一女も設けるが、

阿部正弘首座1845＝22歳：妻が死去すると、荒井家を妻の妹に譲り、
孝明天皇・・・1846＝23歳：意を決して脱藩、単身、江戸へ上る。偽名を使い、按摩ほか、様々な仕事をしながら、勉学に励むうち、

大槻磐溪の推挙があつてか大学頭林復斎の下僕になる機会を得るや、仙台で修めた学の深さと持前の勤勉
さで頭角を現し、塾頭に抜擢されて、講義を受け持つまでになる。

国定忠治磔・1850＝27歳：

ペリー来航・1853＝30歳：来航したペリーとの交渉役に命じられた林復斎が、大槻磐溪と相談するのを目の当たりにして、海外への
造詣が一気に深まると、林家を辞し、江戸の仙台藩邸にあった{順造館}で藩士の教育にあたり、藩士の地位
に復していないにもかかわらず、“仙台出身の識者”として一目置かれる。

箱館奉行堀織部正が、幕府に命じられて蝦夷と樺太を探索することになり、
蕃書調所・・・1857＝34歳：*北辺巡検の一員に抜擢され、踏査した詳しい記録「入北記」を書いて、幕府外国方から高く評価され、
五ヶ国条約・1858＝35歳：この年、幕府が日米修好通商条約を結び、

安政の大獄・1859＝36歳：
桜田門外変・1860＝37歳：*批准書交換のため、訪米使節団(正使新見正興)が派遣されるにあたり、仙台藩から、随員に推挙され、大
槻磐溪、堀織部正らの推薦もあつて、正使の随行員・記録掛になって、念願の初の海外となるアメリカに向
けて、米軍艦ポータハン号で横浜を出航。船中から、アメリカの進んだ面を記録、カメハメハ王にも謁見し
たハワイでは、中国商人から列強の侵略の恐ろしさも教えられ、公平な視点で、つぶさに記録、ブキャナン
大統領にも謁見する間も、できるだけ見学して情報を収集、帰りのアフリカの寄港地や香港での欧州人による
弾圧の様なども含む膨大な「航米日録」をまとめ、藩主伊達慶邦に献呈、正式に藩士に取り立てられる。

遣欧使節・・・1861＝38歳：無謀な攘夷論が渦巻くなか、仙台藩から、諸藩の偵察を命じられ、
職務を全うし、いくつもの報告を提出しただけでなく、製塩の重要性を説いて、気仙沼に塩田を開き、

薩長同盟・・・1866＝43歳：母校ともいえる藩校{養賢堂}の、学頭大槻磐溪のもと、副学頭に迎えられ、藩の中心人物として、後進の
育成に邁進するも束の間、

明治維新・・・1868＝45歳：*鳥羽伏見で戊辰戦争が始まると、朝廷より、徳川慶喜討伐、仙台藩一手で会津藩討伐を言い渡され、憤慨
して、師磐溪とともに、藩主伊達慶邦に進言、会津藩救済を決意した藩主の命で、会津に赴き、前藩主松平
容保に謁見する間、朝廷が仙台藩を監督の奥羽鎮撫総督一行を派遣してきて抗弁してきたため、耐えきれな
くなった藩士が官軍の下参謀世良修蔵を惨殺、全面対決に陥る。自らも思い描いていた奥羽列藩同盟が誕生
し、参謀役に当たる軍務局副頭取に任命されると、新国家の政治理念を建白書に記して意気込むも、官軍の
前に脆くも崩れ、藩は降伏し、同盟は消滅。藩の重臣らが次々捕らえられるなか、仙台を脱して気仙沼に向
かい、最後の希望となる蝦夷地に新国家をつくろうと箱館に向かう榎本武揚率いる大艦隊の到着を待つも空
しく、すでに恭順派が実権を握る藩によって、志津川で逮捕、投獄される。一縷の望みを抱いていたが、

戊辰戦争終・1869＝46歳：切腹を命じられ、没した。